

中長期目標 (学校ビジョン)	安心、支え合い、学び合いのあふれる学校 ～児童生徒一人一人が自らの力を発揮しながら安心して学び、関係機関とつながり合って幸せに 生きるための舞台づくりをする学校～			今年度の 重点目標	1. 安心して学べるための環境づくりに努める。 2. 支え合い、つながりあう体制づくりに努める。 3. 豊かな生き方をめざしたキャリア教育を推進する。 4. 自己の授業を見直し、授業改善を行う。		
年 度 当 初						評 価 結 果 (3) 月	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 安心して学べるための環境づくり ☆保護者も評価 ●生徒も評価	(小学部) どの児童に対しても実態に応じた支援や指導ができるようにする。	担任以外の児童に対する支援方法について共通理解が不十分である。	・保護者が、安心して学部の職員に支援や指導を任せている。 ☆ ・教職員が個のねらいにそった適切な支援や指導を行っている。	個の実態に応じた支援方法のわかる資料を作り、活用する。	・個に応じた支援方法が分かる資料を作成し、教室に掲示しておくなどして活用した。 ・授業前には、学習グループの教員でねらいや教材の提示方法などの話し合いの会を持つようにしたが、グループによっては話し合いの会が十分持てないグループもあった。	C	・学習グループの話し合いを週1回程度持ち、学習のねらいや個々の児童の支援方法などを話し合う。
	(中学部) 教室が生徒にとって安心して学び、安定して過ごせる居場所となるような環境作りをする。	大半の生徒は、教室で安心して学んでいるが、見通しの持てない生徒もいる。	生徒が見通しをもちながら安心して学び、教室を居心地のよい居場所と感じて過ごしている。 ● ☆	生徒が見通しのもてるような視覚支援教材などを作成する。	・見通しが持てるように、授業の流れを板書やスライドでなどで提示した。学習では、ビデオ教材などの既存の教材以外に、実物や様々な画像等を提示したり、ポイント整理に役立つワークシート等を活用したりして支援に役立てた。	B	・重複会で教材作成とその効果的な活用について、共通理解を深める。 ・学部内で教科担当者と教科指導の話し合いの時間を持つ。
	(高等部) 一人一人の特性や実態を共通理解しながら、生徒が安心して学べるような支援や環境づくりに努める。	生徒一人一人の特性や実態、必要な支援について、教員間の共通理解が不十分である。	・教職員は、生徒一人一人の障がいや病気の状態・特性等を理解し、安心して学べるように支援や環境づくりをしている。 ・生徒は、適切な配慮や支援・環境のもとに、安心して学んでいる。 ● ☆	生徒の認知・理解の特性や障がいに基づく有効な支援事例を教職員間で共有する。	・年度初めの学部カンファレンス以外に、8月にも共通理解の会を持ち、生徒理解に努めた。また、PC上に掲示板を設け、必要な支援や環境づくりについての情報共有に努めた。 ・単一障がい学級、重複障がい学級ごとの共通理解が進み、支援の充実につながったが、学部全体での共通理解は難しかった。	C	・学部PC掲示板の内容を充実させ、特に重要で説明のいる事柄については学部会の中で共通理解を図る。 ・共通理解を進めるために、客観的な評価基準を設定・選定したり、観点を持った観察や検査を行ったりする。
2. 支え合い、つながりあう体制づくり	(小学部) 療育園等の専門機関と連携し、支援をつなげ、よりよい支援ができるようにする。	児童の療育相談の指導助言を教育の実践に十分活用しきれていない。	P T, S T, O Tから受けた指導を実践に活かし、個に対する適切な支援ができている。	目的意識を持ってPT、OT、STの指導を受ける。	・個別の指導計画にそったねらいをもって関係機関から助言や指導を受けた。 ・関係機関から受けた助言や指導を学習に活用することができるようになってきたが、学習グループや学部全体へはまだ広がりが見られない	C	・児童の情報交換の時間を必ず設定し、関係機関から受けた助言や指導を学習グループや学部全体で報告して共通理解を図る。
	(中学部) 医療等の関係機関と連携し、職員間で共通理解をして支援を行う。	様々な関係機関からの情報や指導が職員間で十分に共通理解できていない面がある。	学部の教職員は、他機関からの情報も参考にしながら一人一人に応じた適切な支援を行っている。	共通理解を図るため、関係機関から得た指導を学部会や朝会で職員に伝える。	・関係機関から得た簡単な内容は朝会で伝え、まとまった内容は学部会や単一・重複会で伝えて共通理解を図った。また、日常的にグループでの指導が必要なケースはその都度情報交換して支援に役立てた。	B	・現在の取り組みを継続し、情報交換を進める。 ・生徒の課題に取り組むチーム間で、共通理解だけでなく、対応方法の工夫についても話し合うようにする。
	(高等部) 外部専門家と積極的に連携し、指導を授業や日常生活の支援に活かす。	様々な外部専門家とつながっているが、その指導を十分に活かしているとはいえない。	外部専門家と連携し、その指導を教育活動や生徒のQ O Lの向上に活かしている。	定期的に外部専門家から得た指導を学部全体に伝える機会を設ける。	・様々な外部専門家から受けた指導を学習場面で生かしたり、学習内容の改善につなげたりした。しかし、指導を受けた場面以外でその内容を活かすところまでは至っていない。また職員間の共通理解も十分ではない。	D	・外部専門家から受けた指導を多くの場面で活かせるように指導を計画的に行い、連携を進めていく。 ・直接指導にかかわる職員間で指導内容の共有を行い、目標検討会等で実施場面を確認する。
3. 豊かな生き方をめざしたキャリア教育の推進	(小学部) 教職員が児童の卒業後のビジョンをイメージしながら、小学部でつきたい力について語れる力を身につける。	保護者・職員とも、将来の具体的なイメージが持ておらず、小学部段階から身につけておくべき力や備えておくべきことが具体的に見えていない。	保護者の不安の解消やニーズを満たす説明ができ、児童の次の学部での姿や卒業後の姿を語ることができる。 ☆	卒業生の情報、福祉サービスの状況、小学部の時につきたい力等、保護者に情報提供を行う。	・保護者のニーズに応じた情報提供ができるようになってきた。 ・夏休みの進路指導研修会では教員同士で小学部でつきたい力について語り合い、キャリア教育参観日では、保護者と語り合うことができた。しかし、保護者に「キャリア教育」とはどういうことなのか、情報提供が少なかった。	C	・学級通信でキャリア教育の学習のねらいを入れた記事を載せたり、保護者研修会資料を欠席者にも配布したりして、普段から情報発信する。 ・キャリア教育の学習案内には、「キャリア教育とは」という説明を入れる。
	(中学部) 進路情報の収集や研修に努め、生徒の卒業後の生活を保護者と一緒に考える。	保護者、職員ともに進路についての具体的な情報について不十分な面が見られる。	保護者、職員ともに進路についての具体的な情報を知り、生徒のニーズに応じた進路と一緒に考える。	個に応じた具体的な進路情報を得るための研修を行う。	・夏休みに学部で独自に進路研修会を行った。その後、1月の参観日前にも単一会・重複会で指導案や懇談内容についての研修会を行った。	B	・個々の進路課題が懇談で語られつつあるので、今後は日々の語らいの中で保護者と進路と一緒に考えるようにする。
	(高等部) 卒業後の生活に役立つ学習や体験活動を取り入れる。	学習や体験活動が生徒の卒業後の生活を見通したものとしては不十分である。	卒業後の生活を見通した学習や体験活動を計画実施している。	教育課程上の位置づけやねらいを明確にし、卒業後の生活を考えた学習や体験活動を設定する。	・校外学習等の行事で、キャリア教育の視点をより強く意識して計画するようにした。また、来年度の校外学習は、修学旅行と関連付けながら3年間の見通しで計画を立て、ねらいを明確化した。	B	・一人ひとりの卒業後の生活について目標検討会等で時間をかけて語り合い、生徒への指導・支援をチームで行うようにする。 ・校外学習等は3年間の計画に沿って、実態に応じた要素を加味しながら実施する。
	卒業後に必要なコミュニケーション力や自己表現力の育成に取り組む。	挨拶をはじめとするコミュニケーションや、自己表現が苦手な生徒が多い。	生徒がすずんで挨拶したり自己表現したりする意欲や技能が身についている。 ●	挨拶やコミュニケーション、マナーの指導について、一人一人の課題を明確にして職員全員で取り組む。	・挨拶については概ね向上が見られた。しかし自己表現については、職員間で捉えに差があり、共通理解に基づく指導に至らなかった。	C	・「表現力」について研修を深め、技能面・意欲面の両方から実態を把握し、個々の課題に沿って指導する。 ・個々の具体的な課題と対応について共通理解し、職員全員が同じ対応で臨む。
4. 自己の授業を見直し、授業改善	(小学部)(中学部)(高等部) 互いに授業を見合ったり、授業を検証したりしながら、自分の授業を見直し、改善を図る。	(小学部) 授業の見直しにつながる教師間の話し合いが十分にできていない。	・教師は自分の授業を振り返り、授業を改善している。 ・子どもたちがいきいきとした表情で主体的に学習に取り組んでいる。 ●	話し合いや振り返りをして授業改善をする。	・授業前に学習グループの教員で話し合いを持ち、学習の目標をしぼったり、改善すべきところは改めたりして、授業改善を行った。 ・授業公開に努めたが、他の学習グループや他学部の授業を見に行く体制がとれなかった。	C	・体制を工夫して、他のグループや他学部の授業を見に行けるような体制をつくる。 ・単元の実践期間を長くし、授業のねらいにゆとりをもって取り組む。
		(中学部) 教師間で事前・事後の話し合いや授業を見合う機会が少なく、授業の改善に至っていない。	・自分で授業を振り返ったりアドバイスを活かしたりして授業を改善している。 ・授業が改善されることで生徒が主体的に授業に取り組んでいる。 ●	事前・事後の話し合いや授業を見合う機会をつくる。	・授業後に感想を届けたり、話し合いの機会を設定したりして、授業改善につながる話し合いを行った。しかし、相互に授業を見合うことは難しかった。	B	・話し合いの方法や機会を工夫して授業改善を継続する。 ・生徒の評価シートは継続して実施し、授業改善に役立てる。
		(高等部) 互いに授業を見合って話し合う機会がなく、支援のヒントをもらったり自分の実践を検証したりする場が乏しい。	・他者からの意見やアドバイスを活かして、自らの授業を改善している。 ・授業が変わることで、生徒がいきいきと課題に取り組んでいる。 ●	参観の視点を明確に提示して、年間一人2回程度授業を公開する。	・年間概ね2回程度の授業公開を目指したが、概ね一人1回の公開授業にとどまった。目標設定を見直したい。 ・参観の視点を事前にワークシートにまとめて提示したことが、事後の振り返りに有効であった。	E	・全員が1年に1回授業を公開するのを徹底したい。その際、授業参観の評価シート等を参考に授業者と参観者が短時間でも話し合いを持つ。 ・授業改善のために、生徒による評価を取り入れる。

評価基準 A:十分達成[100%] B:概ね達成[80%程度] C:変化の兆し[60%]程度 D:まだ不十分[40%程度] E:目標・方策の見直し[30%以下]